

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 竹末 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

#### 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

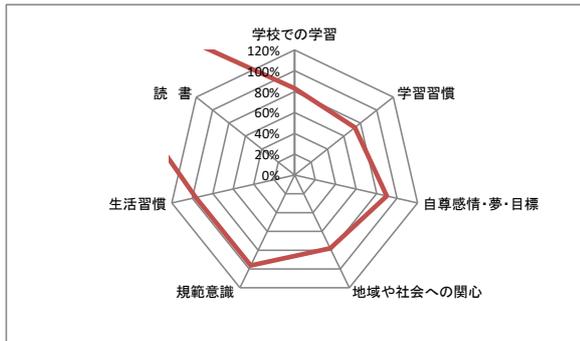
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均より下回っているが、領域別に見ると、「読むこと」の正答率は全国より上回っている。また、問題形式で見た場合、「記述式」においては、やや全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題。目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題。	
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語、また、修飾と被修飾との関係を捉える問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っているが、特に図形領域における正答率が低くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	条件に合う時刻を求める、棒グラフから、数量を読み取るなどの問題。	
	努力が必要な問題	図形に関連する問題、データを分類、比較する問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか、の設問に対して、全国平均を大きく上回っている。</li> <li>・学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか、の設問に対して、全国平均を大きく下回っている。その他の学習習慣の項目でも全国平均を下回っている。</li> <li>・自尊感情・夢・目標に関する設問に対して、全国平均を下回っている。</li> <li>・その他、生活習慣等についても、肯定的な回答率が全国平均を下回っている。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・学力向上・学力定着のための特設時間「竹末タイム」の実施(朝の15分間、音読、視写、国語・算数のスキル学習等)
- ・授業のユニバーサルデザイン化(焦点化・視覚化・共有化)を図る。
- ・優れたノートを掲示し、効果的なノートづくりの意識を高める。
- ・コグトレを行ない、個々の認知機能の不十分な点を強化する。
- ・主題研究において、図形領域を中心にした授業研究を行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の強化を図ることが、本校の課題である。そこで、令和元年度より、中学校区の学校と連携し中学校の定期考査に合わせて「小中連携過程学習強化週間」を設けた。期間中は、「家庭学習強化週間がんばりカード」を活用し、生活全般を振り返らせるようにした。この期間は特に家庭と連携して家庭学習を推進するようにした。
- ・しかし、令和元年、2年度は増えたものの、今年度の結果を見ると、定着していないと言わざるを得ない状態である。今後とも今の取り組みは継続させていくと同時に、より家庭学習の強化を図る新たな取り組みも考えていきたい。
- ・家庭との連携を密にし、全家庭に伝えたいことについては、都度、学級通信などで伝えるようにする。